

研究運営委員ご意見のまとめ(カテゴリー分け)

項番	カテゴリー	ご意見	委員名 (敬称略)
1	目標	1)制約のない共有 2)操作感の統一 3)新しい生物学へのブレークスルー	中村桂子
2	目標	各DBのシームレスな活用により新しい発見を可能にする	吉田輝彦
3	理念	重要な研究基盤として国が継続的に支援する	吉田光昭
4	理念	公的資金を用いた研究内容は統合されるべき	長洲毅志
5	理念	国内の研究で生み出されたデータベースは国民の税金によりなされた研究の成果であり、国民の財産であるから、どこかに埋没してしまうことなく、その活用が図れるようにすべき	金岡昌治
6	理念	日常の研究活動で扱われるデータのガバナンスを強化すること及び、研究成果発表に伴い、その研究過程で使用した全てのデータを、トレーサビリティのある形で原則公開	豊田哲郎
7	理念	世界での共有・世界への発信・世界への貢献といった考え方も今後は重要	長洲毅志
8	理念	日本の高付加価値産業としてのITとその源泉となるDBという大きい構図がないと統合DBの価値が半減する	長洲毅志
9	理念	統合DB構築ができれば、全く新しい形のサイエンスが開けている。WetとDryとのほぼ対等な関係での価値創造である。	長洲毅志
10	理念	営利目的の意味も整理する必要あり	長洲毅志
11	理念	応用目的研究や企業活動と競合的になってはならない。	大久保公策
12	理念	集約されたデータの利便性において機関内外及び外部機関間の格差を作らない透明性の維持	大久保公策
13	理念	データの集約利用による発見研究や同目的の外部との共同研究を厳格に制限された中立的な性格の機関であるべき	大久保公策
14	理念	人材育成:簡単にアウトソースしてしまうような扱いは避けるべき	長洲毅志
15	アプローチ	「政府資金によるデータ産生型プロジェクトのデータを我が国の研究社会で早期に共有するためのルール」の作成をすべき	大久保公策
16	アプローチ	公共財としてのデータを保全・管理し、長期にわたるデータの育成と共有を行う公的機関の設置を検討すべき	大久保公策
17	アプローチ	NCBI型DB統合モデルとコンパチなのか、あるいは異なる点があるなら、むしろその異なる点をはっきりさせることにより「統合」の機能イメージを浮かび上がらせることが肝要	大倉克美
18	アクション	公的資金の研究においては成果の取り扱いに統合DBへの公開を義務付けるようなしくみが必要	長洲毅志
19	アクション	統合DB登録を契約条項として盛り込めば本来それだけで良いはず	長洲毅志
20	アクション	データ所有権、公開原則、DB登録義務などは省庁を超えて統一すべきである。内閣府(総合科学技術会議)主導で徹底を図る	長洲毅志
21	アクション	公開データの目録を業績リストと同様に扱い、予算申請の審査に反映させる。データベース特区と積極的に連携して公開化することをファンディング時に条件づける	豊田哲郎
22	アクション	このプロジェクトを核にして、本格的で恒常的な「統合データベース事業」を立ち上げること	中村桂子
23	アクション	次期のJSTでの事業について、あるべき形態を具体化すること	吉田光昭

24	アクション	JSTへの恒久化というターゲットに向かって問題解決を図ることに注力すべし	長洲毅志
25	アクション	事業の設計と運営における強力なリーダーシップ	吉田光昭
26	アクション	JST以降を考えるための強力なタスクフォースの立ち上げ(総合科学会議、内閣府に設置)	吉田光昭
27	制度・組織	分野別拠点を整備する(研究分野及び省庁ごと)	中村春木
28	制度・組織	総合科学技術会議が拠点として統制する各省の副拠点から成る組織形成が当面の目標	五條堀孝
29	制度・組織	「セントラル型データベース統合」と「フェデレーション型データベース統合」の弁別	吉田輝彦
30	制度・組織	支援事業として独立の組織を持つ	吉田光昭
31	制度・組織	個人情報保護(含む遺伝子情報)、研究倫理、治験、知的所有権に関する法整備	長洲毅志
32	制度・組織	民間も交えてNPOなどの公益法人を作る(ただし一つの省の下ではだめ、内閣府ならよいか、天下りを防ぐ手立てが必要)。	長洲毅志
33	制度・組織	国会図書館をまねる・併合する形態;自治体運営の図書館はランチとして機能	長洲毅志
34	制度・組織	企業体の設立:最初は国営でもよい。コンソでは動きが取れない。将来民営化をすることを決めておかないとビジネスモデルが甘くなる。	長洲毅志
35	制度・組織	数千個以上の個別データベース構築を大勢がインターネット経由で同時に行える支援システムを国家が提供(一括支援を行うインキュベーション拠点群構築)	豊田哲郎
36	制度・組織	統合データベース事業を、構築層(インキュベーション層)と、統合層(ユーザーニーズ 20 層)の二層に役割分担し、データベース公開までのプロセスを構築層において大幅に改善する	豊田哲郎
37	制度・組織	インターフェースの基準決定やメタデータの扱いに関する委員会を内閣府におき、データベース公開の状況について、独法単位、および、データベース特区単位で評価を行う	豊田哲郎
38	運営	統合DBは一省庁の枠に囚われない存在であるべき	金岡昌治
39	運営	内閣府が各省庁からの予算を収集してその任を負う。	長洲毅志
40	運営	文科省がその任を負う(これは独立性がないので当面受け入れるにしても恒久策ではない)	長洲毅志
41	運営	本事業の「当面」の措置として、JSTの御協力による本事業の継続措置を高く評価	五條堀孝
42	運営	中核拠点(現在の情報・システム研究機構にあるライフサイエンス統合データベースセンターとJSTとの協力作業によって、JST内に設置することを想定)を整備する	中村春木
43	運営	4省連携については全体としてまとめ上げるためには上部機関・独立機関(必要なパワーを有する)の構築が不可欠	長洲毅志
44	運営	省庁連携のための司令塔組織(Headquarter: HQ)を内閣府に設置する。現在の研究運営委員会委員を基に考え、さらに各省庁のライフサイエンス・データベース関連の方々に参加願う	中村春木
45	運営	データベース構築支援を集約的に行う各拠点(構築層)にはファンディング面で優遇する(特区)とする一方、広範囲のラボ群への支援を実施する義務を負わせる	豊田哲郎
46	運営	コンテンツの作成と更新を担うDB専門家の育成およびデータ解析を行うバイオインフォマティクスの専門家の育成を構築層で行う	豊田哲郎
47	機能	多くの価値あるDBに容易にアクセスできる(可なり制限されるのは止むを得ない)	吉田光昭
48	機能	効果的な解析ツールに対応している	吉田光昭
49	機能	ライフサイエンス分野の研究者(企業を含め)が使いやすい	吉田光昭
50	機能	高頻度に更新される	吉田光昭

51	機能	分散自律するデータベースの統合利用を推進するための基盤を提供する事務局機能が必要	吉田輝彦
52	機能	統合DBがセキュアな企業アクセスまで視野に入れるのであれば、産業へのインパクトも大きい	長洲毅志
53	機能	統合DBの役割は、さらに「有用化」を追加せねばならない。統合することにより有用化されるものを作るべき(臨床のDBのようにフラグメントなDBなどが典型)	長洲毅志
54	機能	primary dataの登録・編集・標準化・品質管理・閲覧・検索サービ	中村春木
55	機能	多くの異なるデータベースの統合化サービス	中村春木
56	機能	個別研究が独自に公開しているデータベース等を案内する書誌情動的な説明	大久保公策
57	機能	計算資源を利用して維持困難な情報資源やサービスの保存を代行	大久保公策
58	機能	データを共有することの重要性を研究者、ひいては国民に説明する極めて重要な役目を果たすべき	大久保公策
59	機能	研究開発、国際的連携、人材養成、他省連携、発展性	五條堀孝
60	機能	多様な統合化を可能にする標準インターフェースを備えることをデータベース公開者に義務づける	豊田哲郎
61	機能	構築層と統合層の間を、国際的なデータ公開基準(フォーマット、オントロジー、インターフェース)などオープンな方法で繋ぐことにより、省庁を超えたデータの交換を促進	豊田哲郎
62	機能	データベース構築段階は未公開状態であることから、構築層ではアクセス権の設定とセキュリティ管理を厳重に行う。公開データを中心に扱う統合層とは系統的に分離	豊田哲郎
63	機能	各省の統合DBセンターは、特に情報スキルが低い利用者への支援に注力するとともに、一般的な利用者のニーズに最低限共通する俯瞰的なサービスに徹する	豊田哲郎
64	研究開発	組織としての統合データベース(ROIS/JST-BIRD)が「自ら研究」として、「各DBのシームレスな活用による新しい発見を可能にする」研究を行うことも必要	吉田輝彦
65	研究開発	DBの維持、更新、進化のための技術開発を行う	吉田光昭
66	研究開発	スパコンなどの新しいハードへの対応	長洲毅志
67	研究開発	新しいDBアーキテクチャの開発(動的構造、分散・クラウド対応)	長洲毅志
68	研究開発	検索エンジン、次世代DB、コンピュータ言語開発	長洲毅志
69	研究開発	DB品質管理手法の構築(自動化が必要)	長洲毅志
70	研究開発	多言語(シソーラス?)辞書開発	長洲毅志
71	研究開発	統合DBは単に散在しているDBを集めるだけでなく、ユーザが利用しやすいように提供すること、そのための技術開発やDBの活用研究の機能も持つことが望ましい	金岡昌治
72	研究開発	データの整理や説明に加えて、データの価値を上げるための組み合わせ等による育成を行うべき	大久保公策
73	ファンディング機能	統合的に検索・解析することではじめて可能になる、新しい融合領域等の研究の振興を図り、その成功例を実証的に示していく必要がある(ファンディング機能が必要; 利用技術)。	吉田輝彦
74	ファンディング	加えて統合DB外におけるそうした研究を支えるためのファンディングの機能も持つことが望ましい	金岡昌治
75	国際発信	国際的な情報発信の力を持つ	吉田光昭
76	国際発信	中核拠点に海外への窓口機能も含むようにする。	中村春木